

【所属名】企画課

【会議名】糸魚川市総合計画等審議会
第1回 第2分科会

会 議 録

作成日 令和8年7月17日

日	令和8年7月13日（月）	時間	14:30～16:15	場所	糸魚川市役所2階 203・204 会議室
件名	・ 審議事項 (1) 第4次総合計画基本計画(案) について				
出席者	【委員出席者 10人】 嶋田友宏、富田一雄、田原克朗、梅田均、片山和雄、富永範子、 利根川賢、山本習子、星野貴博、久保田武 【委員欠席者 3人】 古市正信、矢島好美、塚田ちひろ 【事務局出席者4人】 企画課（大西課長、卜部室長、小杉課長補佐、山崎主査）				
	傍聴者定員	— 人		傍聴者数	— 人

会議要旨

1 開会（14:30）

企画課大西課長により進行。

- ・ 当日配付資料の確認。

2 副会長あいさつ

3 審議事項

企画課から、本日の進行方法について説明。

- ・ 本分科会は非公開開催。
- ・ 項単位で担当課説明し審議に入る（1項10分程度）。

(1) 第4次総合計画基本計画（案）について

- 第2章 子育て教育分野 …… 11～14 ページ
つながる学び、つなぐ未来 ～地域で育む自立した18歳～

【P11】2-3-1 社会教育の振興（文化スポーツ課から説明）

【P12】2-3-2 スポーツの振興（文化スポーツ課から説明）

【質疑・意見】

（委員）

昔の体育指導員のような方は今もいるのか。

(文化スポーツ課)

体育指導員は現在「スポーツ推進員」という名称で、2年ごと改選している。各地区推薦と公募で28名が、各地域で活動してもらっている。

(委員)

大会等の準備や道具の運搬、会場設営までやってくれていたが、その役割に当たるのか。

(文化スポーツ課)

その通りである。ただ1人では大変なため、地区公民館や地域活動と連携して対応している。

(委員)

「学びや体験を地域全体で支える仕組みの強化」の評価は何を指標にすればよいのか。

(文化スポーツ課)

地域学校協働活動（地域学校協働本部等）の取組を推進することで整理したい。

(委員)

公民館の防災機能強化や、障害の有無に関わらないスポーツ等、部署をまたぐ内容が多い。庁内連携の体制はどうするのか。

(企画課)

総合計画では横断的連携が必要な施策が多い。各施策の記述の中でも連携が分かるよう表現を見直したい。

(委員)

計画記載だけでなく、実際の組織として連携して関わってほしい。

(委員)

部活動の地域移行で、地域で担う指導者（ボランティア等）の確保はどう考えているか。

(文化スポーツ課)

今年度は過渡期であり、国の支援を活用し、地域クラブ指導者の報酬等への補助を最大限活用したい。市独自の指導資格取得補助制度もあり、コンスタントに資格を取得していただいている。子どもたちが困らない形を、意見も伺いながら進めたい。

(委員)

現時点で“指導者がいなくて部活ができない”競技はあるのか。

(文化スポーツ課)

把握している範囲では、困っている競技は現状ではないが、一方で、地域クラブの受け皿が弱い競技もあり、状況を見ながら対応する。

(委員)

障害のある方のスポーツ参加について、そこまでの移動手段に困っていると思われる。その対応は考えているか。

(文化スポーツ課)

実際のところ把握できていないところがあるので、障害者団体等にも確認しながら必要な措置はとっていきたい。

(委員)

体育館等の管理委託で、壊れた設備が伝わりにくい。定期的な見回りやフォローをしてほしい。

(文化スポーツ課)

施設が多く老朽化も進む。利用者の声を拾うため、今年度からQRコードで利用報告を受け、気づいた点を入力できる欄も設けた。毎週確認し、対応を進めたい。

(委員)

QRの周知がまだ不十分である。従来の報告方法との整理も含め、検討をしてほしい。

(文化スポーツ課)

意見を踏まえ検討する。

【R13】2-4-1 芸術文化の振興（文化スポーツ課）

【P14】2-4-2 歴史・文化の継承と活用

【質疑・意見】

（委員）

文化協会という文言が出てこないが、位置づけはどこか。スポーツ協会も同様に見えない。
（企画課）

「ともに進めるまちづくり」の中で団体等を含む形で整理している。

（委員）

施設利用料見直して文化協会の減免がなくなり、脱退団体が増えていると聞く。金銭だけでなく、文化協会への支援のあり方も検討してよいのではないか。

（委員）

個人が所有しているお宝（文化財等）をリスト化したり、貸し出しを受けたりして、展示活用するようなことはできないか。

（文化スポーツ課）

今年度、公民館単位で有形無形を含め、地域のお宝の聞き取りを行う予定である。展示については少し検討させていただきたい。寄贈については、寄贈申請書を提出していただき、寄贈をお受けしているものもある。少しPRが足りていないので、出来る限り周知に努めたい。

（委員）

市民会館の公演（有名アーティスト等）で経済効果もある。呼ぶ基準やジャンル配分はあるのか。

（文化スポーツ課）

ツアー日程など相手側の条件が大きい。ジャンルが偏らないよう配慮しつつ、実施可能な範囲で検討している。あとはコネ（興行者とのつながり）が大きく、提案があれば内部で検討し、糸魚川市にとって効果の高いものを選ぶようにしている。

（委員）

アウトリーチ（学校等への出張公演）を継続的にやってほしい。学校側の負担も課題だと思うが。

（文化スポーツ課）

費用面・学校負担等で難しさはあるが、可能性を探り、担当としても推進していきたい。

○ 第4章 移住定住・地域づくり・人権分野・・・21～24 ページ
つながる力で育む地域の未来 ～若者と多様な担い手が創る協働の社会～

【P21】4-1-1 定住の促進（産業労働課から説明）

【質疑・意見】

（委員）

目指す姿の主語が分かりづらい。「誰が」住み続けたい・住み続けられるまちを目指すのか。
（産業労働課）

「ここに暮らしたい、暮らしてみようと思う人」がそう思える環境づくり、という意味である。若者に限定せず、幅広い世代（高齢者、外国人等も含む）を想定している。

（委員）

PRは具体的にどうするのか。

（産業労働課）

移住フェア（東京・大阪等）やインターネットサイト等を活用する。仕事・暮らし・自然環境などを一体的に発信できるよう、サイトの見やすさも含め整備したい。

(委員)

空き家の課題が増えている。売却・管理・近隣影響など、当事者も困っている。事例集やガイドンスのようなものがあると良いと思う。移住促進は住まい（空き家）とセットで進めてほしい。

(企画課)

空き家対策は（別節だが）基本計画 31 ページ等にも記載している。定住促進と連携して進めたい。

(委員)

結婚を機に女性が市外へ出てしまうなど、上越等へ住まいを移す例がある。どう考えるか。

(産業労働課)

生活面で上越の方が暮らしやすいと感じる人もいる。仕事面で「こちらにいたい」と思える環境づくり等、調査も含め工夫したい（今後アンケート等も検討）。

(委員)

糸魚川と上越は往来できる距離感になっている。だからこそ「どちらに住んでもよい」判断になる。糸魚川を選んでもらえる要因づくりが必要である。

(産業労働課)

日中糸魚川から上越へ行っている数、上越から糸魚川へ来ている数は大体同じくらい。距離感の変化は認識している。少しでも糸魚川を選びたいような要因づくりを考えたい。

【P22】 4-2-1 地域人材の育成と活動人口の創出

【P23】 4-2-2 コミュニティセンターを核とした地域づくり

【質疑・意見】

(委員)

公民館のコミュニティセンター化は、今も地区によっては既にそうなっているのではないかな。場所によって難しいのではないかな。

(企画課)

以前も同様の議論があり、公民館＝社会教育の認識も根強い。今の流れを明確にするため地域協働課を新設した。担当から補足を。

(地域協働課)

市内 21 公民館で地区ごとに課題が違う。公共交通、防災、集落の点在など、社会教育に加えて地域課題解決に取り組む拠点にしたい。

(委員)

23 ページ②の右側のイラストが意味不明。扇風機の羽根のようで、何を示したいのか分からない。説明か、図を変えた方がよい。

(企画課)

まだ原稿段階で分かりにくいところがある。皆さんの声を反映して、今後デザイン会社等に発注し、見やすいものに修正する。

(地域協働課)

③の図も含め見直したい。

(委員)

「地域人材の育成」は誰をターゲットにしているのか。結局、高齢者中心になりがちではないか。

(地域協働課)

地域おこし協力隊等外部人材も含め、地域づくり協議会等と連携しながら発掘・育成していきたい。

(委員)

地域主体が理想だが、現役世代は仕事優先で出てこない。年金世代中心になりがち。ハードルが高い。

(地域協働課)

現状は難しいが、青年部のように若い人を少しずつ引き込む活動が必要。若い人の意見を吸い上げる人（リーダー）を育てる視点が大事。市の後押しも必要である。

(委員)

22 ページ①の「若者やリーダー育成」は、具体的に何をするのか。新しい組織を作るのか、それともこれからか。

(地域協働課)

新組織の立ち上げまでは考えていない。まず地域行事等の負担を見直し、役員の負担軽減で若者の心理的ハードルを下げる。参加した若者の声を聞き、価値観や参加しやすい内容に徐々に変えていく。全地区一斉ではなく、取り組めるところから進めたい。潜在的に若者はいる（例：閉校行事では若い人がいた）。

(委員)

大学連携の記述が長く分かりづらい。高校生までではなく、専門学校・大学生が街を歩く姿が賑わいに必要。もう少し分かりやすく書いてほしい。

(企画課)

これまでも連携協定等を結んでいる大学が複数ある（協定締結・未締結含め）。市長の考え（縮充、外からの活力）も踏まえ、分野横断で活用できるよう関係深化・新規連携を進めたい。

(委員)

学生が来るには宿泊（セミナーハウス等）や指導者等、受入環境が必要。計画に書けるか。

(企画課)

課題認識は同じである。既存のセミナーハウス利用例、民泊等の活用もある。市が直接整備するか、支援により民間活用を促すか検討中。書きぶりも検討したい。

(委員)

駅周辺など“若い人が歩く姿”を理想として進めてほしい。

(企画課)

ご意見を踏まえ記述を検討する。

【P24】4-3-1 一人ひとりが尊重される社会の実現

【質疑・意見】

(委員)

パートナーシップ制度（同性等）はあるか。

(総務課)

登録制度があり、公営住宅入居等で一定の取扱いがある。

(委員)

指標（人権に関心がある割合等）は、どう算出しているのか。

(総務課)

アンケートの集計結果に基づいている。

(企画課)

「関心がある」の解釈は難しい。当たり前になって関心が低く見える場合もある。深掘りした考察が必要であると考えている。

(委員)

人権教育啓発推進計画はいつ策定されたのか。今度は“に基づき”となっているが。

(総務課)

現行は第2次計画（令和4年度～令和8年度）。今年度中に第3次を策定予定。令和9年度以降の計画に位置付ける。

(委員)

多文化共生は、来る側だけでなく、受け入れる市民側の理解を深める取組も必要である。

(市民生活課)

外国人は企業関係・派遣会社経由の方が多い。受け入れる側への周知や理解促進も課題であり、対応を検討したい。

(委員)

市内在住の外国人はどのくらいか。

(市民生活課)

6月末で628人。多いのはインドネシア、次いでベトナムという状況である。

4 その他

(1) 次回の会議日程について

- ・ 次回分科会 7月30日（木）14:30～、庁議室
- ・ 意見シート提出期限 7月24日（金）まで

※ 分科会での意見を取りまとめ、8月20日（木）の（全体会）で反映・修正内容を説明する。

(2) 序論（素案）・基本構想（素案）

資料No.2・3 序論（素案）・基本構想（素案）について

前回の審議会での意見及び後日提出された意見を踏まえ、内容の修正作業を進めてきた。資料No.3については、いただいたご意見の計画への反映等をまとめたもので、反映した状況については、資料No.3の序論（素案）及び基本構想（素案）に赤字で修正を行っている。

本日、基本計画の内容について審議いただいたが、その内容をもってさらに序論及び基本構想の見直しが必要と考えている。引き続き、修正作業を進めていく。

序論・基本構想・基本計画の素案については、8/20（木）開催の総合計画審議会（全体会）で、改めて内容の確認をお願いしたい。

(3) 第3次国土利用計画（糸魚川市計画）

資料5・6 国土利用計画について。

前回の審議会での意見を踏まえ、内容確認を進めている。6月市議会で説明、県との事前協議も実施済み。7/24～8/24でパブリックコメントを実施し、意見を踏まえ修正案を次回全体会で最終確認したい。9月市議会で改定案説明、県の最終協議を経て策定へ。

5 閉会あいさつ

以上